

# 三菱重工の4連覇に挑んだ福江球友会が離島勢初の準V

第20回県下軟式野球選手権大会は、10月1日から三日間、長崎市菅大橋球場に前年度優勝の三菱重工をはじめ、12チームが参加して開かれる。県下軟式野球界の王座を競う大会だけに、各チームの闘

## 「県一」めざして

### 郡市対抗野球チーム紹介

昭和45年10月25日～27日の三日間、長崎新聞に掲載された記事と写真。

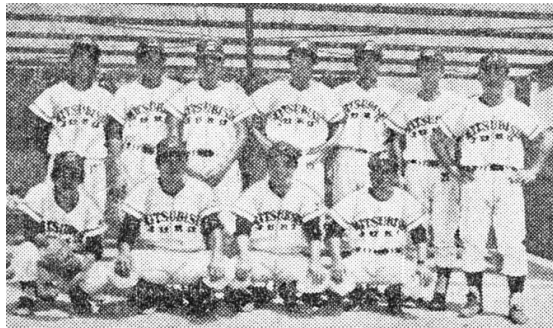
志はすごい。4連勝を狙う三菱重工、国体4位入賞に気をよくする親和銀行など好チームぞろいで激しいぶつかり合いが予想される。そこで大会を前に出場チームの横顔を紹介してみよう。

## 三菱重工長崎 4連勝をねらう 長崎国体の選手ずらり

今年も天皇賜杯全日本に出場するなど気を吐き4連勝を狙っている。昨年の国体で4位入賞した当時のメンバーがそのまま残っており相変わらず試合巧者だ。さらに橋本、横山の新人二人が加わって好守に一段と鋭さを増した。

チームの最大の特徴はどの試合も失点が少ないこと。それを支えているのが荻野を中心とした投手力。とくに荻野は国体で快投してすっかり自信をつけた。制球力にすぐれ速球とカーブで丁寧なコーナーをついていく。またカムバックした井戸の好リードも見逃せない。バックも内、外野ともかっちりともまとまり全くソツがない。

問題は打力。1試合平均2、3点の打線はいま一つ迫力に欠ける。カンのいい松山をトップに、吉武、



野中、井戸口と並ぶ上位は安定した打力を見せるが、何となく点が取れない。やや練習不足で試合数も少ないのが不安の材料。4連勝のカギはいかに総合力を引き出すかと、いったところ。

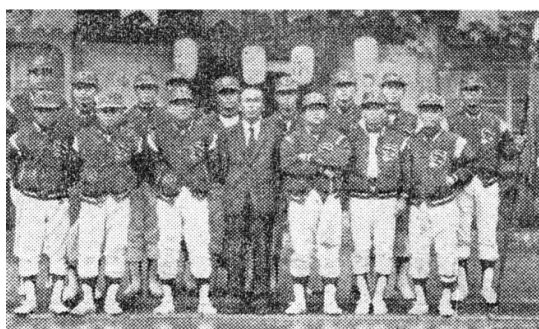
- |    |        |
|----|--------|
| 監督 | 竹本 恵二  |
| 投手 | 荻野 洋一  |
| 〃  | 奥村 良治  |
| 捕手 | 井戸口達三  |
| 内野 | 弦本 匡功  |
| 〃  | 松山 靖彦  |
| 〃  | 野中 光之  |
| 〃  | 出村 富男  |
| 〃  | 横山 卓也  |
| 外野 | ○野原 富安 |
| 〃  | 山田 富嗣  |
| 〃  | 小崎 秀和  |
| 〃  | 吉武 常行  |
| 〃  | 中村 善見  |
| 〃  | 橋本 英一  |

## 親和銀行 優勝候補の最右翼 俊足ぞろい 鉄壁の守備

(推薦)優勝候補の最右翼。岩手国体では4位に入賞。5試合を通じて無失策という鉄壁の守備陣は全国の精鋭から高く評価され「日本一」の折り紙をつくられた。

技巧派の宮本、速球派の松尾、山田と投手陣は豊富。国体では宮本先発、松尾リリーフと継投策で乗り切ったが、今大会はあくまで完投を目ざす。宮本は下手からカーブ、シュート、シンカーと多彩で松尾の剛速球も一歩も引けを取らない。昨年暮れから曾木監督が手がけた投手づくりが実を結んできたようだ。特に松尾の進境が著しい。

攻撃では足で相手内野陣をかき回す戦法。国体では11盗塁と俊足ぞろいで足を生かして三位決定戦を除く全試合に先取点を上げた。長打力がない



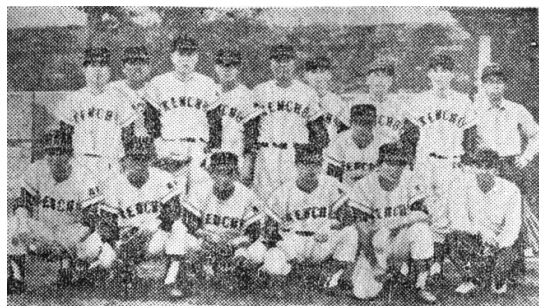
訳では無く、中軸の虎屋、渡辺、香田は一発の力を秘めている。国体から帰ったばかりでやっとな疲れがとれかかったところ。いまコンディション調整に余念がない。曾木監督は『ことし最後の大会だから何としても勝つ』と意欲満々。

- |    |        |
|----|--------|
| 監督 | 曾木 毅   |
| 投手 | 山田 邦雄  |
| 〃  | 宮本 博久  |
| 〃  | 松尾 義徳  |
| 捕手 | 松尾 敏正  |
| 内野 | ○渡辺 耐二 |
| 〃  | 井手 国男  |
| 〃  | 田中 幸徳  |
| 〃  | 吉原 昭信  |
| 〃  | 富永 伝二  |
| 〃  | 香田 博   |
| 外野 | 岩下 猛   |
| 〃  | 虎屋 良徳  |
| 〃  | 下田 定道  |
| 〃  | 岩佐 光和  |

## 長崎県庁 一試合に平均7点 好調な切れ目ない打線

(長崎)準優勝した昨年のチーム力を上回り今年も優勝を狙う。ただ都合で主力二人が欠けるのは痛い。攻守にムラがなく常に安定した試合運びは定評がある。戦績は12勝2敗と好調で県内では無敵を誇っている。地区予選でも4試合全部をシャットアウト勝ちし、群を抜いている。

チームを支えるエース山内はすっかり安定し球威も十分。やや制球に難点は見られるが好調な時には簡単には打てない。リリーフには坂口、原がいる。万全といえないまでもまずまずの投手力。今年は打のチームで一試合平均7点を叩き出す豪打ぶり。野田、芦塚、橋口のクリーンアップは3割5分の高打率をマークして波に乗っている。上位に比べ、下位はやや見劣りするが打線の切れ目はない。



ただトップの井口のバットが、湿っているのが気かり。守備は内外野とも堅い守りで穴は見当たらない。問題はどこまで軟式に馴じめるか。このところ優勝から見放されているので奮起をのぞみたい。

- |    |        |
|----|--------|
| 監督 | 中村 豊   |
| 投手 | 山内 英夫  |
| 〃  | 田端清二郎  |
| 捕手 | 浜村 良美  |
| 〃  | 大林 昭治  |
| 〃  | 神崎 圭一  |
| 内野 | 芦塚 敬二  |
| 〃  | 井口 一彦  |
| 〃  | ○野田 修平 |
| 〃  | 犬塚 久人  |
| 外野 | 坂口 義幸  |
| 〃  | 原 邦夫   |
| 〃  | 橋口 保志  |
| 〃  | 島 孝幸   |
| 〃  | 今村喜久雄  |

**社 産 業 若さで押し通す 波に乗ればこわい**

(佐世保)初出場。ソフトボールから転向して3年目の若いチーム。若いだけに荒さが目立つが、半面、接戦になると若さで強引に打ち勝ってきた。

地区予選では海自造船所3-2、考記洋行1-0、早岐機関区3-2と、何れも1点差。特に決勝の早岐戦では最終回二死満塁からサヨナラ勝ちでモノにした。

エース松尾は速球で勝負。リリーフの落合は左腕からコーナーワークの冴えを見せる。内外野の守備陣は経験も浅く、一つのエラーが出ると動揺して崩れる危険性をはらんでいるが、調子に乗るとショートトの森山を守りのカナメにうまくまとめる。地区予選ではシリ上がり調子が出て、準決、決勝戦ではノー・エラーだった。クリーンアップを組む森山、落合、山崎の打力も徐々に上向いてき



た。これらに一二番の岩永、西山の俊足コンベンピがつながるとかなりの所まで行けそう。

山崎監督は『まだ綿密な野球は出来ないが若さで押し通す』と強気。

監督	山崎 敬治
投手	松尾 正輝
〃	落合 裕
捕手	○ 鶴 英太
内野	岩永 文雄
〃	森山 栄輔
〃	中尾 博嘉
〃	佐藤 次男
〃	白井 賢吾
外野	西山 敏郎
〃	光武 良二
〃	溝口 昭憲
〃	大村 孝生
〃	江口 守

**神戸発動機 ソツない試合運び 豊富な経験 安定した力**

(諫早・北高)9回目の出場。野球をよく知ったベテラン選手が多く攻守にソツがない。豊富なキャリアと安定した力で上位進出を狙う。

投手力は充実しておりエースの宮松に控えは監督兼任の中島がいる。宮松はコントロールのよい速球を主体に決めダマにフォークボールを持っているのが強味。中島は36歳のベテランながら下手投げのコーナーをつく変化球と手元でホップするタマが武器。地区予選では宮松が負傷欠場したため3試合を完投し失点1の好投をみせた。

守備は捕手に田中(諫早ク)、中堅に田村(長崎無線)の二人を補強してぐっと締まった。攻撃力はチーム打率2割4分5厘でハデさはないが短打主義に徹している。トップの前田は選球眼や足がよく



出塁率は高い。両田島、中村治が3割打者。堀口も調子を上げており、これに補強組の田村と田中の鋭い打撃も定評がある。

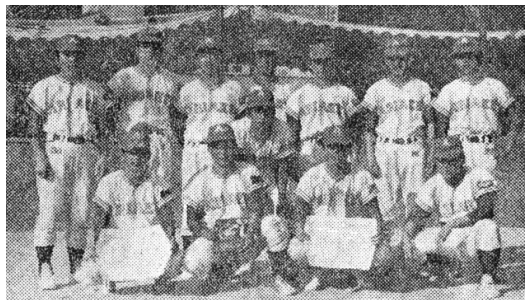
ただ諫早地区に左投手がいないため、大会で左投手に会うのが少し気がかり。

監督	中島 重雄
投手	宮松 和光
捕手	田中 健治
内野	○ 中村 治
〃	不動寺利一
〃	吉田 司郎
〃	島田弥八郎
〃	島田 豊
〃	堀口 敬治
外野	山田 英敏
〃	田村 秀文
〃	前田 和茂
〃	中村 和広
〃	本島 哲夫
〃	石丸 健治

**有明クラブ エース金子が頼み 破壊力秘める中心打者**

(島原・南高)通算7度目の出場。島原・南高地区では県大会の代表権をほとんど独占しており強さは定評のあるところ。エース金子を軸にした守りのチーム。金子は小柄だがバネをきかせて速球、カーブ、シュートを巧みに投げ分ける。制球力もあるがムキになるのが欠点。リリーフには水島がいるがほとんど金子一本ヤリ。

打線は竹之内、吉田、西川の外野トリオが中心。波に乗れば凄まじい爆発力を見せるが、平均打率は2割そこそこ。伊達監督にとって小細工が利かないのが悩み。過去3回ベスト4に残った実績を持っている。今年水島と西川の2新人が加わり最近では最も充実した戦力といわれるが、町役場、農協、学校などに勤めている人や、農家の若者を集



めた混成チームのため、練習もままならずチームワークにやや不安が残る。

速球に弱い打線が打てるかどうか、本大会でどこまで欠点をカバーできるか、波乱をまき起こす可能性もあるが、全ては金子の右腕にかかっている。

監督	伊達 秋信
投手	○ 金子 一雄
〃	水島 和行
捕手	本多 憲明
内野	高見 利則
〃	稲田 広視
〃	吉田 正
〃	宇土 則治
〃	井上 富男
〃	北田清八郎
外野	竹之内和威
〃	吉田 正富
〃	西川 直人
〃	加藤 卓幸
〃	本田 勝

**中村クラブ カギ握る上位打線 多彩な4投手の継投策**

(大村・東彼)昨年に続いて2年連続出場。クラブ発足以来20年の歴史を誇っている。中小企業や商店に働いている若い人が集まって作っている野球好きなグループ。職場単位のチームとは違った特異な存在。選手の職場がそれぞれ違っているので揃って練習できないのが悩み。本大会もぶっつけ本番でのぞむ。

投手陣はカーブのコントロールがいいエースの鈴木。速球で勝負する西正人と孝之兄弟。左腕の高橋と多彩だが何れも完投能力に乏しい。中村監督は継投策で試合を進める腹づもり。

問題は打力。練習量が少ないだけに勝負どころでどれだけ力を出せるかがカギ。トップの釜は出塁率もよく、うまい走塁でかきまわす。山崎、高橋、



本下のクリーン・アップの出来次第が試合を左右しそうだが、下位はちょっと弱い。

守備は一応よくまとまっているが、いったん崩れるとモロい面もある。最近国体で活躍した親和銀行との練習試合で互角に戦い、ナインは「いける」と闘志を燃やしている。

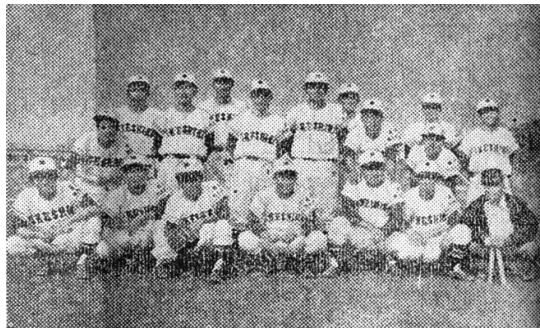
監督	中村 正敏
投手	鈴木 義春
〃	西 孝之
捕手	山崎 俊之
内野	○ 鈴木 久則
〃	指方 忍
〃	大石 信弘
〃	本下 利之
〃	草野 光行
外野	釜 幸三郎
〃	青木 守
〃	高橋 弘忠
〃	森 一郎
〃	西 正人
〃	亀野 季男

**池島鉦業所 制球力抜群の福浦 地区優勝で自信つける**

(西彼)39年にチーム結成。離島というハンディから対外試合に恵まれないのが悩み。時に西彼高チームと試合をするがこれだけで力を探るのは難しい。また20人の部員のうち三分の二が坑内労働者で三交代勤務のため一緒に練習できないという炭鉦独自の悩みもある。

しかし昨年から部員の間に「やる気」が出て、これが練習熱心につながり徐々にチーム力は上向いている。昨年は高松宮杯佐世保地区のCクラスで優勝し今年春の県民総体西彼地区予選でも高島鉦業所に勝った。これまで高島に勝てない怨みがあったが今回の連続優勝で相当自信をつけている。

投手の福浦はコントロールが身上だがやや素直な投球なので打ち込まれる心配もある。リリーフ



尾上は打者の目先を変えるのに適した左腕。平均打率は2割4分というから打のチームだ。3番田中が最もよく打つ。打線は1番から6番までムラなく打てる。特に6番野田は一発があり怖い存在。平均年齢25歳。

- |    |         |
|----|---------|
| 監督 | 林 俊道    |
| 投手 | 福浦 栄作   |
| 〃  | 尾上 春喜   |
| 捕手 | 須藤 泰蔵   |
| 〃  | 野田 博    |
| 内野 | 白浜 孝弘   |
| 〃  | ○ 榎原 昭彦 |
| 〃  | 鈴木 重則   |
| 〃  | 田中 和義   |
| 〃  | 井手 和義   |
| 外野 | 辻 正美    |
| 〃  | 面崎 照義   |
| 〃  | 原口 勇    |
| 〃  | 川上 勝美   |
| 〃  | 花田 康彦   |

**平戸クラブ 破壊力秘める中軸 老練正木、安定した投球**

(平戸・北松) 昨年は地区予選で不覚をとったが県大会の常連。ベテランと若手がうまく溶け合いチームワークのとれたチームで上位進出を狙う。

投手陣はエースの大畑が肩をこわして登板できないのが痛い。絶妙の制球力を身上とする38歳のベテラン正木が好調。控えには速球とカーブをうまく使い分ける宮本がいる。予選3試合のうち2試合をシャットアウト勝ちして失点は僅か1。大きく崩れる心配はまずない。

守備では鳥山、江田の三遊間が光り、捕手の塩川も強肩。これといった穴はない。攻撃の中心は浦田、鳥山、塩川のクリーンアップ・トリオ。浦田、鳥山は予選でそれぞれ1本ずつ本塁打をマーク。一発長打の破壊力を秘めている。トップの江田も最近当



たりが出てきて上り調子。下位まで切れ目なく、予選では3割を上回るチーム打率を記録した。練習の機会が少なくて本大会でモロさが出ないか不安が残るが、調子の波に乗れらうるさい存在。

- |    |         |
|----|---------|
| 監督 | 桑山 正則   |
| 投手 | 宮本 照義   |
| 〃  | 正木 公    |
| 捕手 | 塩川 富和   |
| 内野 | ○ 亀井 敬明 |
| 〃  | 江田 徹    |
| 〃  | 早田 毅    |
| 〃  | 肥後屋 忠幸  |
| 〃  | 鳥山 勇    |
| 〃  | 大畑 達夫   |
| 外野 | 高本 健治   |
| 〃  | 木山 光弘   |
| 〃  | 高田 恵介   |
| 〃  | 浦田 利男   |
| 〃  | 松本 満    |

**福江球友会 エース大木に期待 一発長打の主力打線**

(五島) クラブ結成以来15年になる。五島高OBを中心としたチーム。島内の他チームとの対戦では「勝って当たり前」というようにほとんど負けを知らない。打撃、守備ともハデさはないが各選手平均した力を備えており、投手陣は大木、浦の二人。

エース大木は五高時代は外野手兼投手として活躍。オーバーハンドから繰り出す速球はかなりの威力を秘めている。最近ではスピードが落ちたがうまくコーナーをついてかわす技巧的なピッチングを覚えたのは強味。投げ込み不足だけに制球力はいま一つ。クリーンアップは青田、田端、岩下。一発長打力があり調子付くとひと暴れする。ただ、好不調の波が激しいのが欠点。



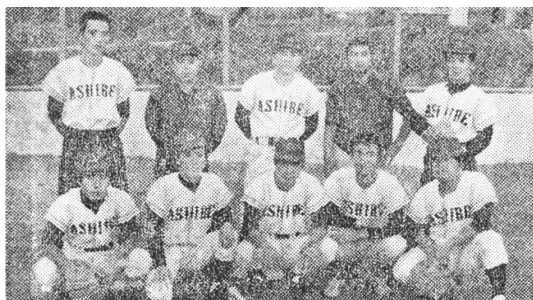
大会に備え退勤後の5時から練習しているが全員一緒に練習する時間は少ない。練習不足から内野の守備面で思わぬ破綻を起こす恐れもある。試合不足など離島チームの弱点をどうカバーするかが善戦のカギ。

- |    |        |
|----|--------|
| 監督 | 貞方 泰則  |
| 投手 | 大木 清忠  |
| 〃  | 浦 正行   |
| 捕手 | 田端 辰生  |
| 内野 | 田中 範彰  |
| 〃  | ○ 才津 勝 |
| 〃  | 田中 講治  |
| 〃  | 貞方 学   |
| 〃  | 井川 信明  |
| 〃  | 岩下 幸夫  |
| 外野 | 青田 明   |
| 〃  | 才津 憲生  |
| 〃  | 布袋 重夫  |
| 〃  | 平山 敏之  |

**芦辺同好会 速球の永尾に期待 快足ぞろいで機動力も**

(宍岐) 結成3年の若いチーム。初参加だけに多くは望めそうもないがナインは大張り切り。エース永尾は小柄だが宍岐では一、二を争う速球投手。コントロールには自信を持っているが投手としての経験が浅く配球に難がある。控えの左腕・竹尾はシュートが武器で威力はあるが制球不足。

守りは守備範囲の広い二塁大川をカナメに良くまとまり特に三遊間は堅い。攻撃は4番青木が一発長打を秘め、前後を伊豆隆、川崎で固めたクリーンアップが得点源。下位がやや弱い全員俊足でちょっとしたミスにつけ込む機動力もある。ただ試合相手に恵まれず、実戦のキャリアが浅いのは



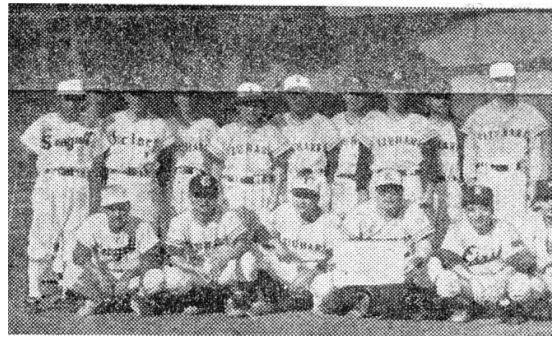
気がかり。エース永尾の右腕に期待したい。芦辺町の商店従業員や漁業従事者が集まり仕事前後の時間に練習に励むという熱心が実りどこまで善戦するかが見ものだ。

- |    |         |
|----|---------|
| 監督 | 篠崎 勝正   |
| 投手 | 永尾 光美   |
| 捕手 | 永田 光    |
| 〃  | 大川 勉    |
| 内野 | 川崎 豊    |
| 〃  | 大川 義則   |
| 〃  | 伊豆 幸一郎  |
| 〃  | 中村 正    |
| 〃  | 伊豆 隆明   |
| 〃  | 篠崎 修    |
| 外野 | ○ 青木 義明 |
| 〃  | 藤本 良喜   |
| 〃  | 竹尾 春行   |
| 〃  | 吉山 賢    |
| 〃  | 吉山 豊正   |

### 全 敵 原 切れ目ない打線 一戦必勝を合ことば

(対馬)初出場。しかも対馬からの遠征というハンディがあるだけに『一戦必勝』を合言葉に大会に臨む。投手力が手薄なため地区予選で好投した美津島チームの島雄を補強した。島雄はオーバーハンドの本格派。178センチの長身から投げ下ろす速球と打者の胸元に食い込むシュートが武器。スピードもあり球質は重い。リリースの島居は元々全敵原のエース。右投げの本格派だが打撃を生かすため内野に回った。打撃面での活躍が期待される。

打撃はチーム平均打率が2割7分と好調で打線に切れ目がないのが強味。特にクリーンアップの三山、武田、吉見は3割台をマークしておりシャープさと共に長打力もある。だが半面荒さがあり変化球を打てるかどうかが上位進出のカギ。



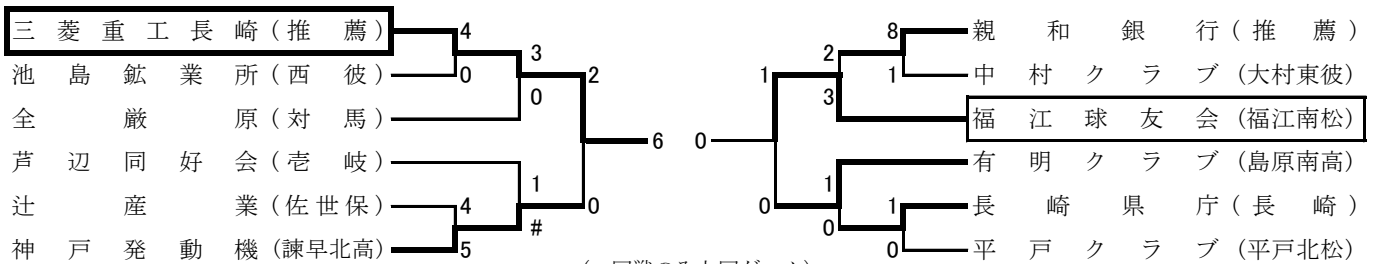
守備も内野を中心にまとまっているが試合数が少ないのが気かり。初出場だけにどこまで力を出し切れるか。武田主将は、「とにかくベストを尽くし一戦一戦をがんばりたい」とハッスルしていた。

- 監督 多田 穰
- 投手 田口 広茂
- 〃 島雄 巨人
- 捕手 三山 幸雄
- 内野 〇武田 昭機
- 〃 藤 忠義
- 〃 吉見 信喜
- 〃 島居 久展
- 〃 根 憲治
- 〃 西山 悟
- 〃 白水 正憲
- 外野 初村 勝也
- 〃 植村 忠光
- 〃 武富 章
- 〃 村瀬 巖

## 第20回長崎県下軟式野球選手権大会

会期 昭和45年11月1日(日)～3日(火)

会場 長崎市営大橋球場



第20回記念県下選手権大会は11月1日から三日間の日程で開催。第1日の1日は秋晴れに恵まれ日曜日とあってスタンドには家族連れが目立ち、職場の応援団も繰り出して声援を送った。第1日は開会式に続いて10時半から一回戦4試合を行ない、前年度優勝の三菱重工長崎が池島鋳業所の守備の乱れに乗じて勝ち、第2試合はシーソーゲームを展開し4-4で延長戦の結果、神戸発動機が初出場の辻産業に延長9回サヨナラ勝ち。第3試合は親和銀行が中村クラブに対して8点を奪って六回コールド勝ちし岩手国体4位の貫禄を示した。第4試合は県庁が平戸クラブに苦戦の末、七回にやっと1点あげて逃げ切った。

### 野球日和…上着ぬいで観戦

〇…一日は澄み切った秋の青空が広がり、絶好の野球日和。先日までの寒さが嘘のよう。開会式は9時半から始まった。ことしは第20回を記念して爆竹や約千個の色とりどりの風船が青空に舞い上がった。スタンドは日曜日でもあり家族連れや職場の同僚などが約千人。それぞれひいきのチームに声援を送っていた。暑いくらいの気温で上着を脱いで観戦。中には日なたぼっこを楽しむお年よりも見られた。

長崎県下軟式野球選手権大会  
主催 長崎新聞社  
後援 長崎県教委、長崎市教委、長崎工業局、長崎商工局、長崎労働局、長崎県民会館、長崎県民センター

☆ 大会前日の長崎新聞に掲載された広告記事 ☆

(昭和45年11月2日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

## 攻守にまさる三菱 池島鋳業 13三振喫して完敗

【一回戦】 = 第1試合 = 振球犠盗併残失 1時間14分

三菱重工長崎	100	000	3	4	1	3	1	1	1	4	0
池島鋳業所	000	000	0	0	13	0	0	0	0	2	2

【評】盛り上がりの少ない試合だった。三菱は池島の拙守に助けられて勝ったが攻守に精彩が無かった。初回の三菱は四球と犠打進塁後に吉武の右中間二塁打で先制。しかし二回以降は福浦の軟投に手を焼き要所を締められて追加できない。最終回にやっと2安打と敵失で3点を奪って決した。だが、いつもの鋭さは影を潜め元気がなかった。

初出場の池島も懸命に反撃を試みたが、好投手・荻野の速球と変化球に全く手が出ず、散發2安打ただけで13三振を喫して完封された。

【三菱】打安点

⑥	松山	1	1	0
⑦	野原	3	1	1
⑧	吉武	4	2	2
⑤	野中	4	1	0
5	奥村	0	0	0
②	井戸	4	1	0
④	3弦本	3	1	0
③	出村	2	0	0
H4	横山	1	0	0
①	荻野	3	1	0
⑨	中村	1	0	0
H	小崎	1	0	0
9	橋本	1	0	0

28 8 3

【池島】打安点

⑦	面崎	3	0	0
⑧	尾上	3	1	0
④	田中	2	1	0
H	須藤	1	0	0
②	野田	2	0	0
H	川上	1	0	0
③	花田	2	0	0
H	井手	1	0	0
⑨	原口	2	0	0
⑥	鈴木	2	0	0
①	福浦	2	0	0
⑤	白浜	2	0	0

23 2 0

【 辻 】 打 安 点

⑤ 岩 永	4 2 2
⑥ 森 山	3 0 0
⑦ 西 山	3 0 1
⑧ 落 合	4 1 0
③ 山 崎	4 0 0
② 鶴	4 2 0
⑨ 溝 口	4 0 0
④ 佐 藤	1 0 1
H 大 村	1 1 0
R4 光 武	1 0 0
④ 福 田	0 0 0
① 松 尾	3 1 0
33 7 4	

# 辻、延長の9回に痛い失策

【一回戦】 = 第2試合 = (延長9回) 振球犠盗併残失 1時間59分

辻 産 業	000 020 200	4	4	3	1	1	1	6	2
神 戸 発 動 機	001 003 001x	5	8	4	0	1	0	3	2

【評】大会初の延長戦。もつれた試合だったが神戸は相手失策に乗じてサヨナラ勝ちした。追いつ追われつのシーソーゲームを展開。まず神戸は三回に堀口が左線二塁打。二死後に中村の右適時打で先行。辻も五回に反撃し3長短打をつるべ打ちして2点もぎ取り逆転成功。だが神戸は六回に相手外野手の拙守に助けられ拾い物の3点をあげた。

2点差を追う七回の辻は岩永の右前適時打でまず1点。さらに一死満塁から押し出し点。だが三走が暴走して本塁憤死し逆転はできなかった。延長に入ってから神戸ペース。九回に内野失策で出た吉田が一死後に堀口の右中間安打しサヨナラの生還をし、粘る辻を振り切った。

【神 戸】 打 安 点

⑧ 前 田	3 0 0
③ 中 村	3 1 1
⑤ 島 田 豊	3 0 0
9 本 島	1 0 0
⑥ 島 田 弥	4 2 1
② 田 中	3 0 0
④ 吉 田	3 0 0
⑦ 山 田	4 0 0
⑨ 堀 口	4 2 1
① 宮 本	2 0 0
1 中 島	1 0 0
31 5 3	

# 親銀は楽勝 中村ク 10失策 4回あっさり逆転

【一回戦】 = 第3試合 = 振球犠盗併残失 1時間31分

親 和 銀 行	010 151	8	0	4	1	2	0	2	0
中 村 ク ラ ブ	100 000	1	11	1	0	2	0	1	10

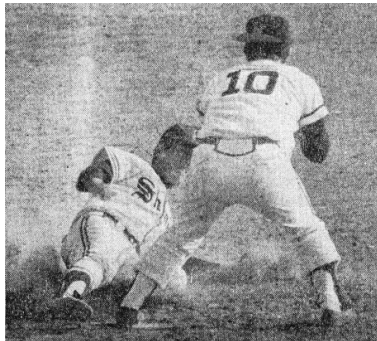
(6回コールド)

【評】中村は初回、親銀の宮本をとらえ先頭から3連打で1点先取して宮本をKO。だが代わった松尾の速球に手を焼き、11三振を喫して成す所がなかった。

先行された親銀は二回に先頭の渡辺が三塁打。松尾の三ゴロで還り同点とした。中村クにはいま一つきめ細かさが欲しかった。

親銀は四回二死二塁に岩佐の中前打で逆転し、五回には3四球に2安打をはさみ、相手守備の乱れも重なり一挙5点をあげて試合を決めた。さらに六回に1点追加してコールド勝ちを決定付けた。

これに対し、中村クラブは救援の松尾に対し散発3安打したのみで、守っては10失策を記録。全くいいところがなかった。



親銀5回表一死三塁に虎屋の左犠飛で三走の渡辺が生還し7点目。

## 抽選で観客に景品サービス

○…大会期間中の三日間は、毎日入場者にいろんな景品が当たる抽選会があり、球場入り口で入場券の半券に自分の名前を書き込む。その日の第3試合終了後に抽選を行ない、景品は協賛商社寄贈の石油ストーブ、毛布、ヘアードライヤーなど。無料で試合を楽しんで景品に当たるとあって一石二鳥の興趣を呼んでいる。

【親 和】 打 安 点

⑦ 岩 下	4 1 1
7 吉 原	0 0 0
④ 富 永	3 1 2
⑤ 香 田	2 0 0
③ 渡 辺	2 1 0
⑧ 虎 屋	2 0 1
⑨ 岩 佐	2 1 1
② 松 尾	3 0 1
① 宮 本	0 0 0
1 松 尾	2 1 0
R 下 田	0 0 0
1 山 田	0 0 0
⑥ 田 中	3 1 0
23 6 6	

【中 村】 打 安 点

⑦ 釜	3 1 0
④ 大 石	3 2 0
① 81 高 橋	3 3 1
② 鈴 田	3 0 0
⑧ 18 西 兄	3 0 0
⑤ 指 方	2 0 0
⑥ 森	1 0 0
⑨ 松 尾	1 0 0
H 亀 野	1 0 0
③ 西 弟	2 0 0
22 6 1	

# 平戸ク、山内打てず

【一回戦】 = 第4試合 = 振球犠盗併残失 1時間21分

平 戸 ク ラ ブ	000 000 0	0	4	4	1	2	1	5	0
長 崎 県 庁	000 000 1x	1	3	10	0	2	0	7	1

【評】県庁は平戸の健闘にあって最終回にやっと1点挙げてサヨナラ勝ちした。平戸にとっては惜しい試合を逸した。二回二死後に肥後屋が右越え二塁打したが後続なく先制機を逃した。その後は山内投手の速球とカーブに手を焼いた。最終七回に一死一二塁と攻めたが、ついに崩せなかった。

県庁打線も宮本の軟投にビシヤリと押えられ、10四死球を生かさない。三回には一死一二塁に重盗失敗で自らチャンスの芽を摘んだ。さらに四回は四球から無死満塁としながら全く策がなく宮本にかわされた。七回裏一死三塁に坂口を置いて、島が中前に快打し貧打戦にやっと終止符を打った。



【平 戸】 打 安 点

⑥ 江 田	2 0 0
⑦ 亀 井	3 0 0
⑤ 鳥 山	3 0 0
⑨ 早 田	3 0 0
② 塩 川	2 1 0
③ 肥 後 屋	2 1 0
④ 大 畑	0 0 0
⑧ 高 本	3 0 0
① 正 木	0 0 0
1 宮 本	0 0 0
18 2 0	

【県 庁】 打 安 点

④ 井 口	2 0 0
⑦ 島	3 1 1
⑥ 野 田	1 0 0
⑧ 2 浜 村	3 0 0
③ 芦 塚	2 0 0
⑤ 原	2 1 0
⑨ 今 村	1 0 0
① 山 内	3 0 0
② 神 崎	1 0 0
H 8 坂 口	1 0 0
19 2 1	

三回裏の県庁、四球で出塁の井口が二盗に成功。タッチするのは江田。

大会二日目は午前9時から大橋球場で二回戦4試合があった。この日も絶好の野球日和に恵まれスタンド風景もにぎやか。選手たちはグラウンドいっぱい白球を追った。第1試合の三菱重工一全敵原は三菱が好機をことごとくモノにして3点をあげ守っては野原、奥村の継投で敵原を完封。ベスト4へ一番乗り。続く第2試合の芦辺同好会一神戸発動機は芦辺投手陣の乱調に乗じ、18四死球を足場に大量の12点を奪い

7回コールド勝ち。第3試合の福江球友会が強豪の親和銀行に対し互角の試合運びをみせ、9回あざやかな決勝点をあげて国体チームを振り切った。第4試合の有明クラブ一長崎県庁も有明・金子投手の健闘で県庁の強打線をかまし、7回にあげた押し出しの1点を守り殊勲の勝ち星。夕やみ迫るスタンドを大いにわかせた。

(昭和45年11月3日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

【三菱】打安点

⑧吉武	4	1	0
④横山	3	1	0
6松山	0	0	0
②井戸口	4	0	0
⑤野中	3	2	0
⑥4弦本	2	0	0
③出村	3	2	1
①7野原	2	0	0
⑦中村	2	0	0
1奥村	0	0	0
⑨橋本	3	2	1
26 8 2			

## 三菱、好機に着実に加点

【二回戦】=第1試合= 振球犠盗併残失

全	敵	原	000	000	000	0	7	4	0	0	0	10	1	1時間39分
三菱重工	長崎		001	100	01X	3	0	3	1	2	1	3	1	

【評】三菱は敵原の善戦にあつてこずつたが数少ない好機を着実にモノにして順当勝ち。

敵原は再三塁上をにぎわせながら、ここ一発に泣いた。初回一二塁の好機は後続がともに三振。三菱の野原は走者を許しながらも要所を締める余裕あるピッチングを見せた。三菱は三回一死三塁に橋本の適時打で1点。四回にも一死一二塁から出村が中前打し1点追加。八回にも敵失で加点した。敵原も後半よく粘ったが力及ばなかった。

【敵原】打安点

⑨6白水	5	0	0
⑤1島居	4	1	0
②三山	2	0	0
③武田	3	0	0
④吉見	4	0	0
⑦植村	4	2	0
⑧5藤	3	1	0
H根	1	1	0
①島雄	1	0	0
H9村瀬	2	0	0
H西山	1	0	0
⑧初村	3	0	0
33 5 0			

【芦辺】打安点

⑤伊豆幸	3	0	0
⑧藤本	3	0	0
⑥伊豆隆	2	0	0
⑨19青木	3	0	0
②大川勉	3	0	0
2永田	0	0	0
③川崎	2	1	0
H吉田	1	0	0
⑦1竹尾	1	1	0
①917永尾	2	0	1
④大田義	2	0	0
22 2 1			

## 芦辺の投手陣乱れる

【二回戦】=第2試合= 振球犠盗併残失

芦辺同好会	000	010	0	1	2	2	0	1	0	2	5	【三】堀口
神戸発動機	016	500	X	12	0	18	1	4	0	8	0	【二】田村

(7回コールド) 1時間39分

【評】神戸は芦辺投手陣の無制球から苦もなく得点を重ね七回コールド勝ち。芦辺の先発永尾の乱調ぶりはひどすぎた。代わった永田の二人で18四死球を乱発、試合の興味をそいだ。

神戸は三回5四球を足場に3安打で一挙6点を奪い、四回には6四球と田村の適時二塁打で5点をあげ試合にしなかった。

芦辺は投手陣の崩れで攻撃にも元気がなく五回にやっと一矢を報いたに終わった。

【神戸】打安点

④吉田	2	2	2
⑦前田	0	0	0
H島田豊	0	0	0
7山田	1	0	0
⑤堀口	4	2	2
⑥島田弥	2	1	0
⑧田村	3	1	2
②田中	3	0	0
⑨中村弟	1	0	0
③不動寺	1	0	0
H3中村兄	1	0	0
①宮松	0	0	0
1中島	2	1	2
20 7 8			

## 強豪親和銀行敗れる

## 福江球友会が大殊勲

【二回戦】=第3試合= 振球犠盗併残失 2時間16分

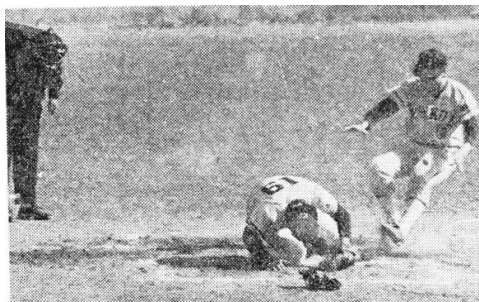
福江球友会	002	000	001	3	2	1	1	0	0	4	1	【三】田中範
親和銀行	000	101	000	2	2	10	2	3	3	5	2	【二】岩下、田端

### 福江、好守とも親銀上回る

【評】福江は好守ともに親銀を上回り国体チームを破る殊勲を立てた。福江は三回、無死満塁の絶好機に三ゴロ本塁悪送球を誘い拾い物の2点を挙げた。だが再三の好機もスクイズ失敗などで追加できない。

これに対し親銀は中盤三度迎えた無死満塁に、犠打の2点だけという不甲斐なさ。

福江は九回、田端、青田の長短打と田中の犠飛で決勝点を奪い逃げ切った。



【福江】打安点

⑨布袋	3	0	0
⑦才津	4	0	0
②田端	4	1	0
⑧青田	4	1	0
⑥田中範	3	1	1
①大木	1	0	0
1浦	3	0	0
④田中講	2	0	0
H4貞方	2	0	0
③井川	3	1	0
⑤岩下	2	1	0
31 5 1			

【親和】打安点

⑤香田	1	0	0
H5吉原	4	0	0
④富永	2	0	0
⑦岩下	2	0	0
⑨3渡辺	4	0	0
③井手	1	0	0
9岩佐	2	1	0
⑧虎屋	2	0	0
②松尾敏	2	0	0
①山田	1	0	0
1松尾義	0	0	1
1宮本	0	0	0
H下田	1	1	0
⑥田中	3	0	1
25 2 2			

福江3回、無死満塁に三ゴロ悪送球で先制の2点を挙げる(走者田中)

# 金子投手、県庁打線を完封

【二回戦】 = 第4試合 = 振球犠盗併残失 1時間35分

有明クラブ	000 000 100	1	6	6	1	1	1	5	0
長崎県庁	000 000 000	0	2	5	0	1	2	9	0

【三】今村  
【二】野田

【評】有明クラブは1 m55cm、48kgという小兵の金子投手のカーブを主体にした度胸のよいピッチングで強豪県庁を完封した。

県庁は初回二死後野田が二塁打。二回にも一死から7番の今村が左越三塁打。三回には先頭・坂口の右前打が出るなど先制機を持ったが無造作な攻撃ぶりでモノにできず結果的にこれが最後までたたった。

これに対し六回までノーヒットに押えられていた有明は、七回先頭吉田が投手の頭を越える内野安打で出ると、続く西川も中前安打しバントで二三塁。県庁の主戦山内は初めて迎えたこのピンチに動揺したのか突然制球を乱し四球を連発し押し出し点を与え、決勝点となった。

この得点に気をよくした金子投手は、はやる県庁打線をゆるいカーブで巧みにかわし、その裏の無死一二塁も後続を簡単に打ち取って堂々ベスト4に勝ち名のりをあげた。

【有明】打安点	【県庁】打安点
①金子 2 0 0	⑥井口 4 1 0
⑥吉田正 4 0 0	⑦島 4 0 0
⑤水島 4 0 0	⑤野田 4 1 0
⑧吉田富 4 1 0	②浜村 3 1 0
⑨西川 4 1 0	③芦塚 3 0 0
⑦竹之内 2 0 0	④橋口 3 0 0
③高見 1 0 0	⑨今村 3 1 0
②本多 2 0 1	①山内 4 1 0
④本田 3 0 0	⑧坂口 3 1 0
26 2 1	31 6 0



大会最終日は3日、大橋球場で準決勝、決勝の3試合を行った。この日は膚寒い空にもかかわらず祭日とあってスタンドは行楽を兼ねた家族連れやチビっ子ファン多数が詰めかけ盛んな声援を送った。

準決勝第1試合は三菱重工がワンチャンスを生かし2点をあげ、守っては荻野が神戸発動機打線を散発3安打に完封。第2試合の福江球友会-有明クラブは投手戦となったが福江が7回にあげた最小得点を大木の好投で守り切った。

決勝戦は前半両軍投手の好投で、ヤマ場の少ない試合となったが三菱重工は後半に入って打線が爆発し、吉武の今大会初の2ランホーム(ランニング)を含む5安打つるべ打ちして大量8点を奪った。これに対し福江球友会は連投の荻野に全く手が出ず、結局1安打に封じ込められた。三菱は一戦ごとに調子を上げ順当に4回目の栄冠を握った。

(昭和45年11月4日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

【神戸】打安点

④吉田	4 0 0
③中村兄	4 0 0
⑤堀口	4 0 0
②田中	4 1 0
⑥島田弥	4 0 0
⑧田村	3 1 0
⑦山田	3 0 0
⑨前田	3 1 0
①宮松	3 0 0
32 3 0	

## 神戸発動機、荻野をくすせず

【準決勝】 = 第1試合 = 1時間46分 振球犠盗併残失

神戸発動機	000 000 000	0	4	0	0	2	0	5	0
三菱重工長崎	020 000 00X	2	2	1	1	1	0	4	3

【評】三菱がワンチャンスを生かして勝った。試合は二回で決まった。神戸が二死二塁の先制機を逃したその裏に三菱は一死から井戸口が四球。弦本とのエンドランが的中して一三塁。ここで出村がきれいにスクイズを決めて先取点。さらに中村の中前適時打で加点した。三菱らしいソツのないうまい攻撃だった。三回以降は両投手の前に全く手が出ず三者凡退の繰り返しだった。

神戸は好投手荻野の速球が打てず得点圏に走者が出たのは三度だけで、ついに荻野を崩せなかった。三菱の貫禄勝ち。

【三菱】打安点

⑥松山	4 0 1
⑦野原	2 0 0
7山田	2 1 0
⑧吉武	4 1 0
⑤野中	3 0 0
②井戸口	2 0 0
④弦本	3 1 0
4横山	0 0 0
③出村	2 0 0
⑨中村	2 1 0
H9橋本	1 0 0
①荻野	3 1 0
28 5 1	

【福江】打安点

⑨布袋	4 0 0
⑦才津	3 0 0
②田端	4 0 0
⑧青田	4 0 0
⑥田中範	4 1 0
⑤岩下	3 0 0
④田中講	1 0 0
H平山	1 0 0
4貞方学	1 0 0
③井川	3 1 1
①大木	3 1 0
31 3 1	

## 有明ク、好投の金子見殺し

【準決勝】 = 第2試合 = 1時間39分 振球犠盗併残失

福江球友会	000 000 100	1	3	1	1	1	0	5	0
有明クラブ	000 000 000	0	0	9	0	5	1	5	2

【二】井川

【評】1点を争う試合だったが福江は有明の荒い攻撃に救われ七回にあげた1点を守り切った。

福江は有明・金子投手の切れのよいシュート、カーブを打ちあぐんでいたが、七回に先頭の田中範が左前打。バントで二進後に井川が右中間に殊勲の二塁打。トラの子の1点をあげた。福江のうまい攻めに対し、有明は雑な攻撃で再三の好機をフイにした。初回一死一三塁には上位打者が簡単に打って逸機。三回は無死で本田が出塁。二盗した無死二塁に三塁を欲張って刺された。ここは当然打者の安打を待つところで暴走が命取り。四、八回にも得点機を迎えたが策が無く好投の金子を見殺しにした。

【有明】打安点

①金子	3 0 0
⑥吉田正	3 0 0
⑤水島	2 0 0
⑧吉田富	2 0 0
⑨西川	3 0 0
⑦竹之内	3 0 0
③高見	3 0 0
②本多	2 0 0
④本田	2 0 0
23 0 0	

# 三菱の王座ゆるるがず 後半に猛打爆発

## 6回、福江球友の歯車狂う

【決勝】 1時間56分 振球犠盗併残失

【福江】打安点

⑥ 田中 範	4 0 0
⑨ 布袋	4 1 0
⑧ 青田	3 0 0
② 田端	3 0 0
⑦ 才津	3 0 0
④ 田中 講	2 0 0
H4 平山	1 0 0
⑤ 岩下	3 0 0
③ 井川	2 0 0
H 貞方 学	0 0 0
R 浦	0 0 0
① 大木	3 0 0
R 貞方 泰	0 0 0
<hr/>	
	28 1 0

福江球友会	000 000 000	0	5	1	0	0	0	2	2
三菱重工長崎	000 002 22X	6	0	9	0	2	1	6	1

【本】吉武

【二】山田

【三菱】打安点

⑥ 松山	4 1 2
⑦ 野原	4 0 0
⑧ 吉武	3 1 2
⑤ 野中	4 1 0
② 井戸口	3 1 1
④3 弦本	1 0 0
③ 出村	3 0 0
H 小崎	1 0 0
4 横山	0 0 0
① 荻野	3 0 0
⑨ 山田	3 2 0
<hr/>	
	29 6 5

【評】三菱は後半、大木投手の乱れをついて一気に攻め5長短打で大量6点を奪い一方勝ちした。

三菱は三回の一死一二塁、五回の一死二塁の先制機を逃したが、六回に先頭の野中が左前打。二盗後に井戸口が左前安打。三塁を回った野中は左翼からの好返球でタイミングはアウトかと思われたがうまくタッチをかいくぐり先取点(下写真)。この後、捕手が無意味なタマを二塁に投げ、これが悪送球となって二塁から井戸口も還って追加点。これで福江は歯車が狂った。その後も三菱はたたみかけ、七回には山田が内野安打。二死をとってホッとした大木に吉武が右中間を抜き中継の拙さもあり一挙に本塁に還ってランニング本塁打となった。さらに八回は制球難の大木から四球を選び二死満塁に松山が左前に2点打。

これに対し福江は、荻野に思いのままに料理され、布袋の中前打1本だけで得点圏に走者を進めたのも一度だけ。荻野の快投に一矢も報えなかった。



三菱6回裏無死二塁  
井戸口の左前打で  
野中が生還

- 【個人賞受賞者】
- ◇最優秀選手賞 荻野洋一(三菱)
  - ◇最優秀投手賞 荻野洋一(三菱)
  - ◇首位打者賞 吉武常行(三菱), 333
  - ◇打撃賞 松山靖彦(三菱)  
堀口敬治(神戸)
  - ◇敢闘賞 井戸口達三(三菱)  
大木清忠(福江)
  - ◇勝利監督賞 竹本恵二(三菱)

天皇賜杯第25回全日本軟式野球大会 8/9～・滋賀県  
三菱重工長崎 【一】 0-1 常盤交通自動車(福島)

高松宮賜杯第14回全日本 【16チーム×2】 は不出場

第25回岩手国体 10/11～

◇親和銀行◇ 監督・曾木 毅

【一】 2-1	山形新聞社(山形)	渡辺 耐二	吉原 昭信
【二】 1-0	大和設備工事(群馬)	山田 邦雄	富永 伝二
【準々】 2-1	京都市消防局(京都)	宮本 博久	香田 博
【準】 1-3	諏訪精工舎(長野)	松尾 義徳	岩下 猛
【三位】 0-1	厚木自動車部品 (神奈川)	松尾 敏正 井手 国男	虎屋 良徳 下田 定道
		田中 幸穂	岩佐 光和

岩手国体・高校軟式野球の部

◇上五島高校◇

【二】 3-0	住田高(岩手)
【準】 4-2	早稲田実業高(東京)
【決】 2-1	小野田工高(山口)

◇国体で県勢初の優勝をした上五島高校ナイン◇  
部長 鬼塚 謹吉 監督 長田 康志

投手	犬塚 虎夫	遊撃	松浦 安則	控え	田中 芳之
捕手	田坂 孝明	左翼	近藤 有希	〃	西村 初二
一塁	川口 茂一	中堅	法村 恵一郎	〃	釘田 穂
二塁	市川 巳代治	右翼	田口 恒男	〃	中村 博之
三塁	塩田 仁徳	控え	田島 嘉隆		

常陸宮賜杯第6回全日本準硬式野球 5/31～・京都府  
長崎県庁 【一】 5-4 日立製作所栃木(栃木)  
【二】 6-7 岩手県経済農協連(岩手)

岩手で開かれた国体に西九州代表で出場した親和銀行はこの国体が全国デビューであった。一回戦から三回戦まですべて1点差のゲームを下手投げで変化球に冴えを見せる宮本と、制球力ではいま一つだが速球派の松尾義の継投で接戦をモノにした。

準決勝の長野戦は、1点のリードを許してから日没のため翌日に特別継続試合となり、再開してすぐに同点としたが2点を追加され1-3敗退。三位決定戦ではベテランの山田が初先発。立ち上がりにソロ本塁打された以外のワンヒットピッチングも味方の援護なく0-1で四位に甘んじたが全国大会初出場の親和銀行が前年長崎国体の三菱重工と同じ国体四位の成績。

曾木監督は就任1年目の快挙でもあった。その後、46年、48年、50年、53年…と親和銀行は国体出場を果たし、極めつけは60年の鳥取国体と、平成7年福島国体での準優勝へと健闘していく。